

二次元の山脈

事実こそが19世紀における地図製作の活力源だった。しかし情報を求める人々に、刻々と変わりゆく世界の実状を示すうえで、製作者には創意工夫と少しばかりの芸術的な資質が必要とされた。新時代を切り拓いたその独創的な手法とは、どのようなものだったのか。

文 マシュー・スタージス

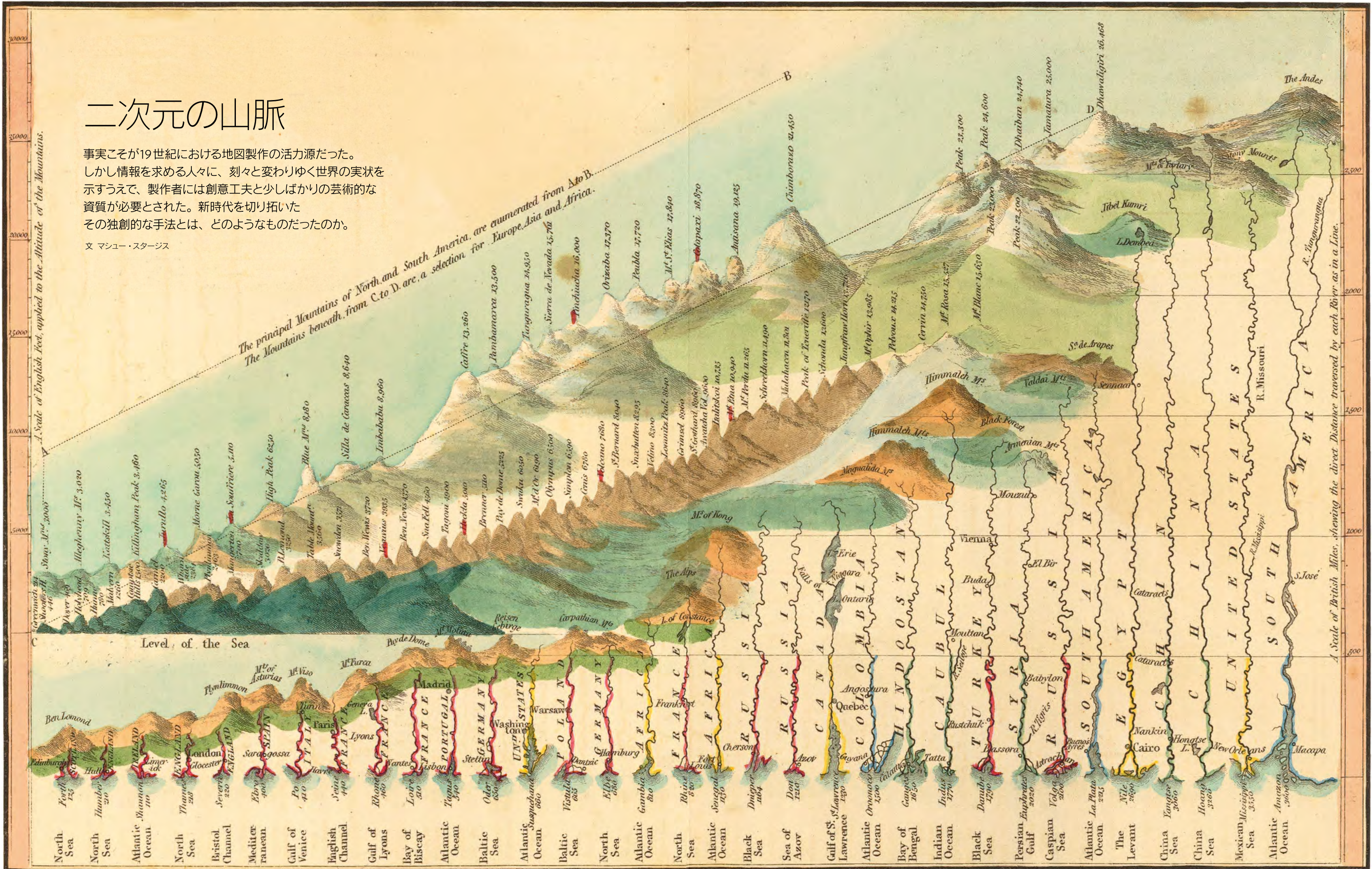




Table of the COMPARATIVE HEIGHTS of the PRINCIPAL MOUNTAINS &c. in the World.

REFERENCE.

N. AMERICA.		S. AMERICA.		EUROPE.		ASIA.		AFRICA.	
No.	Height in Feet.	No.	Height in Feet.	No.	Height in Feet.	No.	Height in Feet.	No.	Height in Feet.
1 Popocatepetl	Mexico 17,710	22 Chimborazo Highest of the Andes	21,441	39 Mont Blanc Highest of the Alps	15,665	60 Dhaulagiri the highest of the Himalah		76 Atlas M ^{ts}	Morocco 12,500
2 Orizaba	17,371	23 Dorca Gussada	19,570	40 Iliza	15,540	M ^{ts} & the highest in the World. Hind.	26,462	77 Peak of Teneriffe	12,338
3 Mt. St. Elias	N.W. Coast 12,690	24 Antisana	19,149	41 Ceryn	14,780	61 Yonathur a Peak of the Himalah M ^{ts}	25,500	78 Neveldit M ^{ts}	10,000
4 Longs Peak	Rocky M ^{ts} 12,500	25 Catopaxi	18,891	42 Schreckhorn	13,000	62 Ilizhin	21,740	79 Gross Morne	Loi Bourbon 9,600
5 James' do.	12,000	26 El Altar	17,256	43 Glockner	Germany 12,130	63 Interior summits of the Himalah		80 M ^{ts} of Gondar	Abyssinia 8,450
6 Volcano de Colima	Mexico 9,186	27 Illinissa	17,238	44 Perdu Highest of the Pyrenees	11,265	M ^{ts} varying from 24,500 to	19,000	81 M ^{ts} Taranita	7,800
7 City of Tobaca	8,218	28 Sangui	17,136	45 St. Bernard	11,000	64 M ^{ts} Opluc	Loi of Sumatra 13,800	82 Schneberg M ^{ts}	S. Africa 6,390
8 Mexico	7,470	29 Tunguragua	16,500	46 Simplon	11,000	65 M ^{ts} Ararat	Armenia 12,000	83 Kamborg	5,644
9 Durango	6,847	30 Pichinea	15,939	47 Elma	10,700	66 Altai M ^{ts} highest peak	Russia 10,700	84 Table M ^t	3,531
10 White M ^{ts} Highest Peak	N. Hamp. 6,634	31 El Corazon	14,790	48 St. Gothard	Switzerland 9,500	67 Aratba	Kamtschatka 9,600	85 Diana's Peak	Loi of S. Helena 2,700
11 Mooschillock	4,636	32 Farm House of Antisana the highest	13,434	49 Lomnitz	Hungary 8,640	68 Lebanon	Palestine 9,535	86 The principal Pyramid	Egypt 500
12 Mansfield M ^t	Ver. 4,279	33 Plain of Assuay	13,123	50 Velino Highest of the Apennines	8,387	69 Hermon			
13 Camels Rump	4,188	34 Bueran	12,652	51 Olympus	Greece 6,500	70 Gete	Loi of Java 8,500		
14 Saddle Back	Mass. 4,000	35 Mines of Chota	12,562	52 Hecla	Iceland 5,000	71 Peak of Quindipert		6,400	
15 Table M ^t	S. Car. 4,000	36 City of Quito	9,514	53 Ben Nevis	Scotland 4,387	72 Ural M ^{ts} highest peak	Russia 4,900		
16 Peaks of Otter	Vir. 3,953	37 Santa Fe de Bogota	8,264	54 Ben Lovers	Wales 4,015	73 Caucas	Hindooistan 4,000		
17 Round Top	N. York 3,804	38 Popayan	5,905	55 Vesuvius	Naples 3,731	74 M ^t Tabor	Palestine 3,000		
18 High Peak	3,718			56 Snowden	Wales 3,571	75 M ^t Carmel	2,000		
19 Grand Monadnock	N. Hamp. 3,234			57 Macgillivuddy's Reeks	Ireland 3,404				
20 Allegheny M ^{ts} average height	2,400			58 Crossfell	England 3,390				
21 Blue M ^t	Conn. 1,000			59 Skiddaw	3,175				

Reference to the Colours
 The M^{ts} of N. America are coloured Blue
 S. America Yellow
 Europe Red
 Asia Green
 Africa Brown

私たちはグラフィックの時代に生きています。サインやシンボルが至るところに溢れ、私たちが追い立てる。誰もが忙し過ぎて文字を追う時間も不足している現代において、過剰な量の情報は、バイチャート、図式、棒グラフ、ワードクラウド、タイムライン、フローチャートといった図像に凝縮されていく。

天気図から株価チャートに至るまで、このような手法は新聞やテレビで多用されている。かつては味気なく形式的だったものが、今ではコンピュータの登場によって大いに熱を帯びている。図や写真は、もはやじつとしていることなく、拡大し、変形し、合体することもある。プラットフォームやメディアも多様化し、次にどこに現れるのか予想することもできない。スマートフォンから飛び出し、ビルボード看板を駆けめぐり、iPad画面で躍り始めるのだ。

もちろん、こうしたインフォグラフィックは新しい現象ではない。情報をビジュアルで表現するという発想は、文明と同じくらい古くからある。ラスコー洞窟の壁画はある種のインフォグラフィックだ。筆談の初期形態では、文字ではな

この頃の製作物で最も精妙で特徴的だったのは、当時すでに計測されていた地理的な発見の数々を表示するための「チャート」だった。世界中の山の高さを相対的に示したり、世界中の川の長さの違いを表したりする図表だ。事実を明快に伝えるためにさまざまな形が考案され、その多くが秀逸な出来栄であった。このような並外れた製作物は、科学的発展の成果であると同時に芸術的発展の成果でもあったのだ。

チャートのなかには、山々がぎつたりとひしめき合って積み重なり、見事な型抜きゼリーのよう表現されたものや、世界の最高峰の数々を高い方から

標高順に並べ、ページを斜め方向に横切る一連の細長い山脈のように表現したものなど、多彩なデザインが見られる。このほか、西半球の高峰はページの左側に、東半球の高峰は右側に置かれ、雄大な風景のなかに芸術的に配置されたものもある。この場合、アルプス山脈は小さくならず、荘厳なヒマラヤ山脈の足元にひれ伏しているかのように見える。

当然ながら、単純化されたイラストで表現された山々は見栄えがよい。三角形のシルエットはドラマチックで、色づけや影づけも容易だ。ひと筋の煙で活火山を表すことができ、山の頂に雪化粧を施すこともできる。

単純化されたイラストで表現された山々は見栄えがよい。三角形のシルエットはドラマチックで、色づけや影づけも容易だ。ひと筋の煙で活火山を表すことができ、山の頂に雪化粧を施すこともできる。

【前見開きページ】
 銅版印刷画に手で色づけをしたイラストで、古代や近代の地理を記録した地図全集のなかの一枚（1835年、ロンドン）。
 【右ページ】
 ヘンリー・タナーが作成した「Table of the Comparative Heights of the Principal Mountains &c. in the World」（世界主要山岳などの標高比較表）の1845年改訂版。初版は1836年。山は数字や記号で識別され、大陸別に色分けされていた。チャートはジョセフ・パーキンスが作成し、銅版印刷したもの。

こういった欠点を補うために、山岳をデザインの一部に置き、河川はエレガントなパターンで装飾して周辺部に配置するといった工夫が施された。そのなかには、山々の長さを、湖や島の面積と比べて伝える重要な事実だった。だが、情報は常に塗り替えられる。1816年に



「コンドルが頻繁に飛翔する高さ」であると記述している。また、1万9400フィート(5913メートル)はチンボラソの登頂を試み、当時、世界記録を樹立した「フンボルトとボンブランの両氏が1802年6月23日に到達した高さ、1万8225フィート(5555メートル)は「地衣類の限界高度」と注記されている。

発行者側は想定読者層が求めるであろう情報を追加することで、チャートの訴求効果をさらに高めることを狙っていたのだろう。アメリカで製作されたチャートには、首都ワシントンなど国内主要都市の標高に加え、フィラデルフィアの弾丸製造塔の高さ184フィート(約57メートル)も記載されていることが多い。イギリスで製作されたチャートには、グリニッジ天文台の海拔高度214フィート(約65メートル)とロンドンのセント・ポール寺院の高さ65フィート(約20メートル)が記される傾向にあった。また、1850年にフランスのトーマン・ドリュオー・グジョンが製作した端整なチャートには、熱気球が7000メートルの高さに達したという事実を載せ、これを達成したジョゼフ・ルイ・ゲイ・リュサックが「これは人間が到達した最高の高さだ」と自慢気に語った言葉を引用している。

聖書の歴史や古典的な神話も、チャート製作者に重宝されていた。世界有数の高峰と最長の河川を記したヘンリー・タナーの比較チャートは、1836年の初版以来、数十年間にわたって再版を繰り返すという人気ぶりだったが、これに

はアララト山9500フィート(2896メートル)、オリンポス山9100フィート(2774メートル)のほか、イエスが姿を変貌させたタボール山2000フィート(610メートル)などが含まれていた。

19世紀の人たちにとって、このような地図上の大半の情報は新鮮でエキサイティングなものだった。何よりもまず事実こそが、この時代の活力源だった。しかし、事実は固定されたものではなく、移ろいやすいものだ。ひとつの事実が別の事実を打ち負かすこともある。新しい事実が常に浮上してくる。19世紀を通して、多くの事実が激しい勢いで現れては消えた。新しい科学的手法や大がかりな地理測量が導入されるなど、冒険と発見の時代だった。世界にまつわる地理情勢は、刻一刻と新しい知識が流入しているような状態だったのだ。

18世紀後半には、一般的にチンボラソが世界で最も高い山と考えられていた。しかし、1808年にネパールの高峰ダウラギリが2万6262フィート(8005メートル)と測定され、これに異議を唱えた。その30年後、ヒマラヤ山脈の

カンチェンジュンガがさらに高いと発見され、その地位は返上された。そして1856年になると、イギリス統治下のインドでジョージ・エベレスト卿が大三角測量を行い、当時ヒマラヤでP15という仮称で呼ばれていた山が2万9029フィート(8848メートル)という真の最高峰であることを確認。後に発見者の名前が冠された。

河川も同様に順位を争っていた。河川の水源を遡ることが難しく、支流に関して不明な部分があったため、議論の余地は尽きなかった。初期のチャートでは、アマゾン川またはミズーリ川支流のミシシッピ川を1位に置き、ナイル川を5位前後に置くことが多かった。しかし、白ナイルの水源がビクトリア湖であることが発見され、ナイル川はナンバーワンの地位に躍り出ることに

なった。事実の変更は発行者側にとっては、もちろんよいニュースだった。新版が必要となり、新しいカラー印刷を試すチャンスも生まれ、そして何よりも、新規販売の開拓につながった。アップグレードを待ち望むのは、何もP&Eの時代に始まったことではないのだ。

(上)「Comparative Height of the Principal Mountains and other Elevations in the World (世界主要山岳・高地の標高比較)」と題され、J・コーンが銅版画を作成し、1823年にバルティモアのフィールディング・ルーカス・ジュニアが出版した地図。(右)1864年に「The Principal Mountains and Rivers of the World compiled from the Latest Authorities (最新当局編集による世界主要山岳・河川)」と題する地図がニューヨークのシェーンベルグ社から発行されたが、この時までに、世界で最も高い山は直近の発見者になみ、エベレストとして定着していた。

PHOTOGRAPHS: DAVID RUMSEY MAP COLLECTION/WWW.DAVIDRUMSEY.COM

